実際に体外受精をするには？

体外受精に入る際には、事前に体外受精の方法について
説明させていただく時間を設けております。

◎ＡＭＨ（アンチミューラリアンホルモン）の検査はお済みですか？

体外受精を行う際には、複数の卵を得るために卵巣刺激を行います。卵巣刺激法は複数あり、方法を選択する上でＡＭＨ値は重要になります。採血によって検査を行いますが、結果がでるまでに１週間程度かかりますので、お早めに検査を受けて頂くことをおすすめします。

◎体外受精を行いたい周期の月経が始まる前までに、体外受精の具体的な方法についての説明を医師・看護師より聞いて頂く必要があります。（プロトコール説明）

卵巣刺激の方法を決める大事な説明です。体外受精をしたい周期の月経が始まる前までに説明をお聞きください。
「卵胞チェックなど別の診察の時と一緒に」という形でも結構です。説明をお聞きになりたい旨を予約時にお知らせいただくとスムーズです。
お渡しした資料を読んで頂き、看護師からはご不明点にお答えさせて頂きます。

体外受精の日程調整について

体外受精の周期は体の状態に合わせてすすみます。
当初の予定が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

◎体外受精や胚移植の周期に入る前に、当院の長期休診（年末年始、ゴールデンウィーク）とぶつからないか確認・相談してください。

体外受精を受ける予定で、次の予定月経から計算してその後の計画（勤務予定・滞在予約）を立てられていくかと思います。当院は、年末年始、ゴールデンウィークなどにメンテナンスのため長期の休暇になります。休診中は採卵や胚移植を行うことができません。
休診の予定は院内の掲示やホームページでお知らせいたしますが、患者様へのご迷惑を最小限にとどめるために、希望する周期の採卵や胚移植がそのような日程（休診）に当たらないかどうか、計画を決める前に予めご相談ください。

◎体外受精や胚移植の予定は変更になることがあります。

体外受精では月経中に採血・超音波検査を行って、その結果に問題がなければ卵巣刺激が始まります。従って、その結果次第ではその周期には卵巣刺激に入れないことが時々あります。また、卵巣刺激の途中で予定を変更することも稀にありますことをご了承ください。それまでかかった診察料・薬剤料金の返金はいたしかねます。また、交通費・滞在費などに関しても当院では一切保障できませんのでご了承ください。

体外受精スケジュール

体外受精に関するスケジュールの大まかな見通しを示しています。
詳細、料金については各種説明書をご覧下さい。

採卵

① 採卵前周期 『プロトコール説明』で予約して、来院。
診察時に医師と刺激方法について相談します。

卵胞の大きさとホルモン値で採卵日を決定します

月経周期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
②IVFスタート																					
③卵巣刺激																					
④採卵														★							
⑤凍結後説明																					

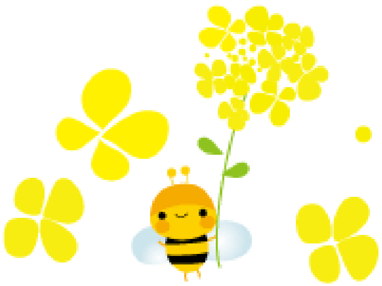
刺激方法や卵胞の育ちによって来院の頻度は異なります

② 『IVF スタート』で来院
プロトコールに基づき、卵巣刺激周期に入ります。

③ 卵巣刺激
月経２日目もしくは３日目から内服や注射により卵胞を育てます。

④ 採卵当日
採卵と媒精を行います。（媒精とは卵子と精子を受精させること）

⑤ 採卵 ７ 日目以降に『凍結後説明』で来院
凍結胚の個数、胚の状況をご説明します。
また胚移植の時期や胚移植の準備について医師と相談致します。
『凍結後説明』は平日午後の予約枠となっています。



胚移植

※ 胚移植の周期は避妊してください。

月経周期	1	2	・・・・	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
⑦胚移植周期診察																						
⑧胚移植日(胚盤胞の場合)													★									
⑨妊娠判定日																						♥

胚移植の準備方法によって来院の頻度は異なりま

月経周期 12，13 日目の診察の状況によって胚移植日を決定します。

胚移植日よりおよそ９日後が妊娠判定日となります。
（妊娠４週０日に当たる日）

① 胚移植の月経周期スタート
自然排卵周期またはホルモン補充周期のどちらかで胚移植を行います。

② 胚移植当日

③ 妊娠判定日
妊娠４週０日相当に当たる日が判定日となります。

④ 妊娠成立後は１週間ごとに受診

⑤ 妊娠９週頃 出産予定日を決定し、当院卒業となります。

体外受精に関するよくある質問

1．仕事をしながらの通院 （プロトコール説明書もご参照ください）

体外受精を行うとなると、一般不妊治療より通院回数が増えたり、身体への負担などで仕事を続けながらできるのか不安になる方も多いでしょう。
刺激方法によって連日注射が必要な場合があり、毎日注射のために通院して頂くこともあります。
注射に関しては自己注射も選択できます。その場合は自己注射の練習が必要です。（動画あり）
卵胞の育ち具合は個人差があるので、その状況によって医師が次回診察日を判断します。
診察の日がどうしても都合が悪い場合は医師との相談で日程調整できることもあります。

2．体外受精の診察時間について

体外受精の治療では受診時間に制限があります。

『IVF スタート』	平日 AM11:30 まで、PM15:30 まで、土曜日 11:30 まで
『診察前採血』	平日 AM12:00 まで、PM16:30 まで、土曜日 12:00 まで
『体外受精の診察』	平日 AM11:30 まで、PM16:30 まで、土曜日 11:30 まで
『注射のみ』	平日 9:00～12:00、PM16:30 まで、土曜日 9:00～12:00
『採卵当日』	朝 8:30 までに来院していただきます。
『胚移植当日』	曜日によっても異なりますが、午前の場合は 10:30 頃、午後の場合は 14:30 頃となります。胚移植決定日にお時間をお伝えします。

3．アルテミスでの注射について

夜間・休日・祝日の注射はアルテミスのみとなります。

平日夜間	19:00～20:30	病棟で注射
土曜日	19:00～20:30	病棟で注射
休日･祝日	11:00～14:00	病棟で注射

当院で予約時間を決めた上で、行っていただきます。
アルテミスへは注射のみの通院となりますので、**診察・治療に関してのご質問は当院にてお願いします。**

4．採卵周期の採血について

採卵までの採血は『IVF スタート時』と『採卵決定時』の原則２回です。
しかし卵胞の成熟状況により採血回数が増えることもあります。
採血結果が出るまでに１時間程度の待ち時間が発生します。
採血がある日は時間に余裕を持ってご来院下さい。
また体外受精の診察では急に採血が必要となることもありますので、受診時間には制限があります。

5．採卵当日の採精について

精液は採卵当日提出していただきます。自宅で採取して２時間以内に奥様がお持ちいただくか、当院の採精室の利用も可能です。ただし土曜日は原則として採精室は利用できません。
採卵前は 1～２日程度の射精しない期間を設けて下さい。運動率の低下を引き起こす可能性があるため、禁欲期間は１週間以内が望ましいです。

６．採卵日の注意事項

・採卵当日はお化粧やネイルアート、コンタクトレンズは外していただく必要があります。
　ネイルアートをなさっている方は採卵当日までに外すようお願いします。

・採卵日前日の夜より絶飲食となります。

７．麻酔について

採卵で使用する麻酔には局所麻酔と静脈麻酔があります。

卵巣の中の卵胞の個数と卵胞の位置を参考に、患者様と相談して決めます。

過去に麻酔薬のアレルギーを起こしたことがある方、喘息の既往がある方は医師に申し出てください。

◇局所麻酔･･･膣の奥に表面麻酔の注射をします。意識のある状態で採卵を行います。
採卵後の安静時間は１時間です。

◇全身麻酔･･･点滴のチューブから麻酔薬を入れます。意識の無い状態で採卵を行います。
（静脈麻酔）　採卵後の安静時間は２～３時間です。その間は絶飲食で点滴を行います。

８．媒精について

媒精とは精子と卵子を受精させることです。方法は２つあり、通常体外受精と顕微授精です。

採卵当日、精子調整後に媒精方法のご相談をさせていただきます。

詳しくは別紙パンフレットとステップアップ教室の資料をご参照下さい。

９．採卵後のスケジュールについて

卵巣が腫れそうな方には採卵２～３日後に診察や採血で来院していただく場合もあります。

採卵７日目以降に『凍結後説明』(平日午後)で来院していただき、凍結結果についてご説明致します。

１０．採卵後の移植について

凍結胚が得られたら、凍結融解胚移植についての説明をさせていただきます。

原則として採卵した周期には移植は行いません。

ショート法、アンタゴニスト法では、卵巣の腫れが残ることがあるので凍結融解胚移植や次の採卵を行う場合は１周期お休みをした方が良いです。

フレンドリー法、モデレート法では凍結融解胚移植や次の採卵は、採卵した周期の次の月経から行うことが可能です。しかし、卵巣の腫れが残っている場合は次の周期に延期することがあります。

凍結融解胚移植は身体の状態に問題なければ、希望される周期に行うことができます。

１１．お子様連れでの来院について

体外受精では『採卵当日』『胚移植当日』はお子様連れでの来院を原則ご遠慮頂いています。

診察や注射のみの日は一緒にご来院いただいても構いません。

ただし、診察の中で急に採血が必要となる場合もありますので、結果が出るまで時間を要する事があります。

またアルテミスの注射の場合、お子様はお連れいただけませんのでご注意ください。

※以上の内容に関する料金については、料金表をご覧下さい。